

高耐久対策の導入を検討した栈橋上部工の設計・LCC 算定事例

No.		1-5
基本情報	構造形式	栈橋
	水深	-14m
	栈橋上部工構造	RC
	設計年次	・基本設計:平成 21 年 ・細部設計:平成 21 年
	建設年次	平成 21 年度～平成 23 年度
	新設・既設改良	新設
検討条件	性能の経時変化に対する検討時期	細部設計時に検討
	設計供用期間	50 年
	部材の維持管理レベル	維持管理レベル I
	性能の経時変化に対する検討項目	・中性化 ・塩化物イオンによる鉄筋腐食
	鉄筋腐食発生限界となる塩化物イオン濃度 C_{lim}	2.0kg/m ³
	性能の経時変化に対する検討時のセメント種類	特段の想定はしていない (塩化物イオンに対する設計拡散係数 D_e については、実測値より設定)
検討結果	無対策時の性能の経時変化に対する検討結果	・中性化:OK ^{※1} ・塩化物イオンによる鉄筋腐食:NG ^{※1}
	検討された高耐久対策および性能経時変化に対する検討結果	・エポキシ樹脂塗装鉄筋:OK ^{※1} ・高耐久性埋設型枠:OK ^{※1} ・防食塗装工法:未検討(エポキシ樹脂塗装鉄筋とのコスト比較のみ) ・電気防食工法:未検討(エポキシ樹脂塗装鉄筋とのコスト比較のみ)
	選定された高耐久対策	高耐久性埋設型枠
	高耐久対策の選定経緯	経済性のみではなく、現地での施工性および維持管理性を重視した

※1 性能の経時変化に対する検討結果の凡例

OK: 設計供用期間中、鉄筋腐食発生限界深さ(中性化の場合)もしくは鉄筋腐食発生限界濃度(塩化物イオンの場合)には達しない

NG: 設計供用期間中、鉄筋腐食発生限界深さ(中性化の場合)もしくは鉄筋腐食発生限界濃度(塩化物イオンの場合)に達する

